

新型コロナウイルス感染症拡大防止に関するガイドライン

山形県サッカー協会女子委員会

1 基本的な考え方

- (1) 参加チームのスタッフ（監督・コーチ等）・選手・観戦者（スタッフ・選手の家族に限る）及び審判等をはじめ、大会関係者の安全・安心の確保を最優先として、大会実施に向けた対策を行う。
- (2) 大会に関わるすべての者は、試合日7日前からの健康・体温チェックを徹底し、少しでも体調不良等の症状がある場合は参加しないこと。
- (3) 大会の参加にあたっては、チーム・選手の所属長からの許可を得ること。
- (4) 大会の開催、実施に係る重要事案は、山形県サッカー協会と東北サッカー協会が協議の上決定する。

2 感染拡大防止策の概要

(1) 参加に向けた対応

- ① 各会場の担当者は事前に会場施設と打合せを行い、感染対策に必要な事項を確認のうえ、参加チームへ伝達すること。（使用可能施設、飲食可能場所、等）
- ② 参加チームのスタッフ・選手は、健康チェックシート（様式1）により、試合日7日前から健康・体温を確実にチェックするとともに、チーム代表者は必要に応じて提出できるよう保管すること。
- ③ 試合日7日前からの健康・体温チェック時に、以下のア～クに該当する事項がある場合は、原則として参加を認めない。ただし、風邪症状（発熱、のどの痛み、咳、たん、鼻水、だるさ、呼吸苦、嗅覚味覚異常）がある場合は医者や保健所の指示に従うこと。

※ 濃厚接触者は大会に参加できない

【試合日7日前における以下の事項の有無】

- ア 平熱を越える発熱
 - イ 咳、喉の痛みなどの風邪の症状
 - ウ だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）
 - エ 味覚や嗅覚の異常
 - オ 体が重く感じる、疲れやすい等
 - カ 新型コロナウイルス感染者との濃厚接触者
 - キ 同居家族や身近な知人で感染が疑われる方
 - ク 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触
- ④ チーム代表者は、スタッフ・選手・観戦者の試合日の健康・体温を会場入場前に確実にチェックし、健康チェックシート（様式2）を入場時に本部へ提出すること。
 - ⑤ 審判及び運営者は、試合日の健康・体温を各自でチェックし、健康チェックシ-

ト（様式2）を本部へ提出すること。

- ⑥ 本部担当者は、チーム代表者等から提出された健康チェックシート（様式2）を後片付け担当チームに引き継ぎ、後片付け担当チームは会場施設に提出すること。
- ⑦ 提出様式に指定のある会場は、その指示に従うこと。また、健康チェックシートの提出が不要の会場は、本部担当者が保管し、後日事務局へ提出すること。
- ⑧ 試合から1週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、山形県サッカー協会女子委員会に速やかに報告すること。

（2）試合日の対応

- ① 参加チームは感染対策責任者を設置し、以下の対応を行うこと。

【感染対策責任者の役割】

- ア 選手の日常的な健康観察（試合日7日前の結果を常備しておくこと）
- イ 感染疑い、陽性者が発生したときのスタッフ・選手の行動歴の調査、報告。
- ウ 日常の活動、試合前後における選手の体調管理
- エ 必要がある場合、試合当日の大会本部に選手の様子を報告する。

- ② 健康チェックシート（様式2）を試合当日の大会本部に提出すること。
- ③ 会場到着後に体調不良者等が出た場合、速やかに本部に報告すること。
- ④ 飲食については、周囲の人となるべく距離をとって対面を避け、会話は控えめにすること。
- ⑤ チームから出たゴミ・廃棄物は各自持ち帰りとする。また、鼻水・唾液等のついたごみの処理には十分配慮すること。
- ⑥ 移動時も感染防止対策を行うこと。（車内等の換気、マスク着用、座席配置等）
- ⑦ 試合会場では原則マスク（不織布製）を着用すること。
- ⑧ 試合前後の手洗いうがい、消毒を徹底する。
※ 各チームでハンドソープ・消毒液を準備すること。
- ⑨ 試合前のアップ時はマスクの着用を義務付けないが、終了後は速やかに着用すること。試合観戦中のベンチ内でもマスクを原則として着用すること。
- ⑩ ベンチに入らなかったメンバーは3密に留意しながら観戦すること。
- ⑪ ベンチ外メンバー、観戦者の応援は拍手のみとし、不必要な会話を控えること。
- ⑫ ボトルの回し飲みは禁止。（個人用ボトルで対応、飲水タイムの実施、給水箇所の設置など）
- ⑬ 会場、ピッチ内において唾や痰を吐くことは極力行わないこと。
- ⑭ チームで使用するボールや用具等、多くの選手が触れるものも消毒すること。
- ⑮ 更衣室や控室を利用する際は、十分に換気を行い、マスクを着用し、不必要な会話を行わずに、短時間で利用すること。
- ⑯ 飲みきれなかったスポーツドリンク等は必ず水場に捨てること。

3 その他

- （1）マスクを着用する場合は、こまめに水分補給を心がけるよう、各チームで指導すること。また、周囲の人との距離を十分にとれる場所で、マスクを一時的にはずして休憩するなど、熱中症には十分に注意するよう配慮すること。
- （2）高温や多湿といった環境下でのマスク着用は、熱中症のリスクが高くなるので、屋

外で人と十分な距離（少なくとも 2 m 以上）が確保できる場合には、マスクを外すよう声がけすること。ただし、会話の際はマスクを着用すること。